

## 平成29年度第2回 箱根町行財政運営を考える町民会議 暮らしグループ 結果概要

日 時：平成29年6月23日（金曜日）14：45～15：50

場 所：箱根町役場本庁舎4階 第2委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

安藤雅章委員、勝又 實委員、中村光章委員、勝俣昭彦委員、中里健次委員、  
酒寄繁基委員、高橋典之委員、勝俣昌美委員

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

田中啓教授、池島祥文准教授

〔傍聴者〕

鈴木美貴氏、小笠原俊彦氏

〔町〕

對木総務部長、村山企画課長、辻満、海野

### 1 意見交換の概要

前回のグループ別意見交換で出された暮らしに係る4つの課題に対し、現状や課題とともに改善策について意見交換したものの。

#### ①教育関係

- ・家庭環境や交通関係により塾に行かせられない世帯が多い。学力にも差が出ているので何とかする必要がある。
- ・教育を充実できれば、若い親世代が町外に出て行かないのではないか。このため、町が費用をかけてでも良い指導者など人材を確保してはどうか。
- ・小田原市片浦小学校は外国語指導が充実しており、小規模特認校（※1）として入学を抽選とする程の人気がある。特色ある教育を考えてはどうか。
- ・横浜市等で見られる「寺子屋」のように、地域の高齢者が勉学や技術を児童に教授する環境づくりも、箱根町の特性を考慮すると良いのではないか。

##### ※1 小規模特認校制度

…少人数ならではのきめ細かい指導や地域と連携した特色ある教育活動を行っている小規模校で子どもを学ばせたいという保護者の希望がある場合に、一定の条件のもと、市内全域から児童の入学・転校を認める制度。

## ②交通関係

- ・渋滞による経済的損失は大きいと思うので、それを試算し公表できれば、町民・事業者の本気の取り組みに繋がるのではないかな。
- ・第2東名やリニア中央新幹線が整備されると、箱根町は通過点となる可能性がある。また、災害時の多様なルート確保も必要なため、南箱道路だけではなく、交通インフラの整備は今後も積極的に取り組むべきである。
- ・湯本から仙石原に行く場合、国道1号線を通るルートと箱根新道から湖畔沿いに行くルートがあるが、渋滞を加味すると時間は変わらない場合があるので、小田原箱根道路に目的地までのルートや所要時間等を示唆した野立て看板を設置することで、渋滞緩和に繋がるのではないかな。
- ・湯本駅前の事業者による路上駐車が渋滞の大きな原因となっている。荷捌きの時間について制約を設けてはどうか。
- ・湯本の一部地域に大規模な駐車場を設け、パークアンドライドの取り組みを行うのはどうであろうか。

## ③生活（買い物、医療、福祉など）

- ・社会福祉協議会では、買い物代行ボランティアなど社会保障制度の対象になる前の方を支援する取組みを始めている。
- ・地域によっては、車の乗合で買い物等を行うような慣習もある。
- ・やはり総合病院が近くにないのが、高齢者や観光客にとっては不便である。
- ・高齢者は地域の指導者のような役割を担うことで元気なお年寄りを活かすことも必要である。
- ・買い物や病院への通院の送迎など事故した場合の補償等が怖いので、送迎時の保険代の補助などコミュニティ力への支援が必要ではないかな。

## ④住宅関係

- ・空き家バンクは、定住人口増加の起爆剤ともなりうる。空き家バンク制度では建物取得後の用途は限定していないが、不法民泊への対応はしっかり行わなければならない。
- ・前回意見交換会で、自然公園法により住宅建築が制限されることについて問題提起があったが、自然保護や景観維持の観点からすると、法が貢献していることも大きく、また、環境省所管で緩和することは難しいのではないかな。